

弓削商船高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	実験実習 2
科目基礎情報						
科目番号	3A25		科目区分	専門 / 必修		
授業形態	実験・実習		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	商船学科		対象学年	3		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材						
担当教員	湯田 紀男					
到達目標						
授業科目の相互関連及び理論を理解し、実技を修得する。 航海系関連科目を中心に、実技演習・実験により修得する。						
ルーブリック						
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
航海		航海に関する技業概要を修得できる	航海に関する技業概要を理解できる	航海に関する技業概要を理解できない		
運用		運用に関する技業概要を修得できる	運用に関する技業概要を理解できる	運用に関する技業概要を理解できない		
学科の到達目標項目との関係						
専門 A2 専門 E3						
教育方法等						
概要	航海系関連科目を中心に、実技演習・実験を行う。 関連科目：商船学概論、電子工学、計測・制御、船舶工学、船舶安全工学、水力学、校内練習船実習					
授業の進め方・方法	授業は実施表に従い、内容に応じて班編成を行って効率的な実習を行う。 養成施設引当て科目（単位）：航海コース [航海計器(0.2),水路図誌(0.1),船体の構造(0.1),気象・海象(0.1),操船(0.1)] 免許講習引当て時間：ARPA講習（実技6）、救命・機関救命講習（講義1）、消火講習（実技3）					
注意点	総合評価は各項目の平均によるが、1項目でも不合格があればこの科目を不合格とする。なお、無断欠席については単位を認めない。					
実務経験のある教員による授業科目						
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	実験実習ガイダンス（全員）	講義の進め方や講義内容の理解		
		2週	小型舟艇実習	小型舟艇、救命艇の操作・取扱・運転概要理解		
		3週				
		4週	航海計器取扱	船橋内機器の準備、操作、取扱の概要理解		
		5週				
		6週				
		7週	技業実習	甲板機器、甲板作業の概要理解		
		8週				
	2ndQ	9週				
		10週	はまかぜ操縦実習	各種惰力や入・出港操船法の概要理解		
		11週	通信機器取扱	G M D S S 機器の操作・取扱理解		
		12週	A R P A ・ 船灯シミュレータ実習	A R P A 取扱・船灯の種類や見え方の理解		
		13週				
		14週				
		15週	救命艇実習（救命艇のみ）（全員）			
		16週	救命索発射実習（全員）	救難信号及び救命索発射装置の取扱法理解		
後期	3rdQ	1週				
		2週				
		3週	第3期（3班編成）			
		4週	船体抵抗実験	錨把駐力、船体抵抗等の概要理解		
		5週	安全工学実習	火災探知警報装置、消防員装具、消火器等理解		
		6週				
		7週	練習船実習（離・着岸作業）	錨作業、係留作業等の概要理解		
		8週				
	4thQ	9週	航海計画（全員）	各種水路誌の見方、航海計画法の概要理解		
		10週				
		11週	第4期（2班編成）			
		12週	Chart work	ログブックライティング（全員）		
		13週	練習船実習（操縦性能・防火操練）	各種惰力、速力試験法、操練等の概要理解		
		14週				
		15週				
		16週	ログブックライティング（全員）	航海日誌等の日誌記入法の概要理解		
評価割合						
	レポート		成果物・実技	その他	合計	
総合評価割合	40		40	20	100	

知識の基礎的な理解	30	0	0	30
思考・推進・創造への適応性	10	0	0	10
汎用的技能	0	30	0	30
リーダーシップ・コミュニケーション	0	10	0	10
態度・志向性（人間力）	0	0	20	20